

富士山宝永噴火による大磯の被害



大磯でも当然、火山灰が降り積もったべえ。「富士山自焼記」という史料によると、噴火が起こった当日の昼過ぎには、梅沢（現二宮町）から大磯にかけて大砂利、中砂利ほどの石が約6～10cm、大磯から戸塚にかけては小砂利ほどの石が約9～12cm降り積もったんだべえ。



生沢、寺坂の方では約30cm積もったとも考えられるのよ。そんな状態だったら、田んぼや畑は大丈夫だったのかしら？

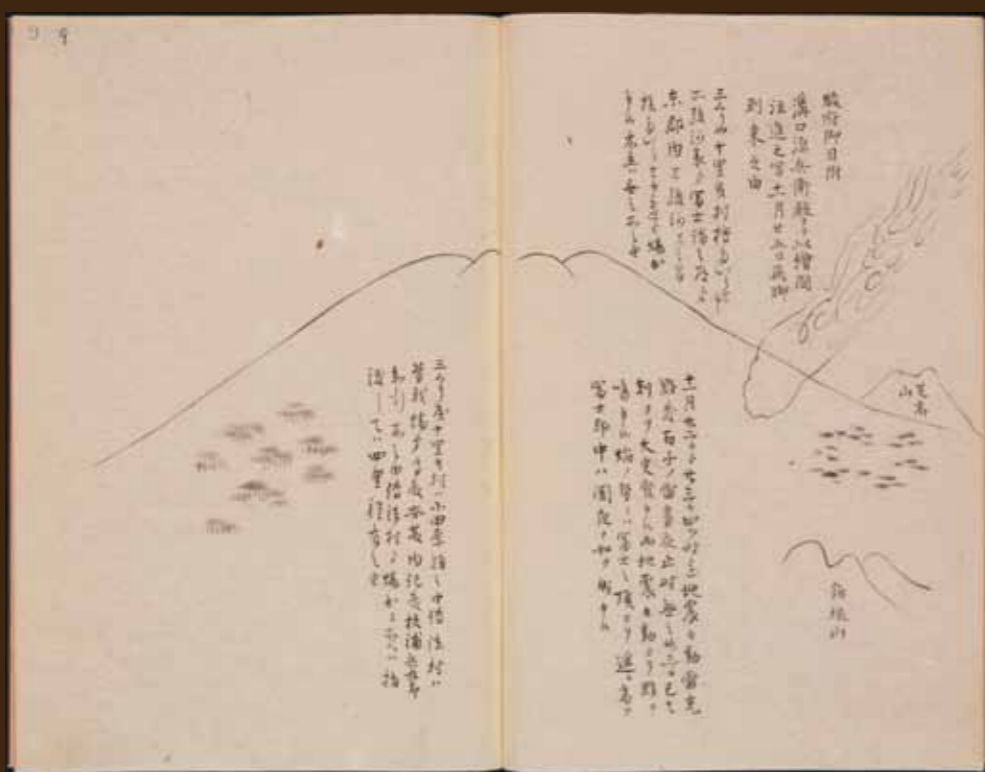


被害を受けたべえ。黒岩では、田んぼだったところが畑になったり、耕作できなくなったりしたことが、史料からわかるべえ。影響は、なんと約50年後の史料にも見られるべえ。

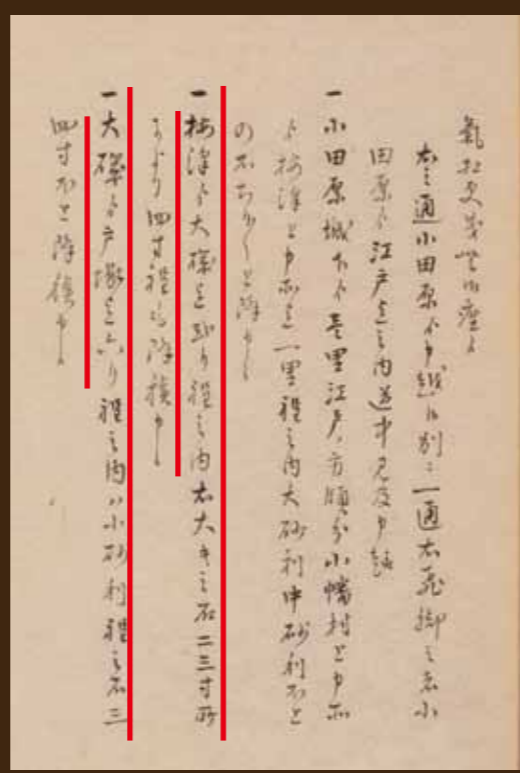


50年後にも影響があったの…！一度災害が起こると、復興が大変なのは昔も今も変わらないのね。

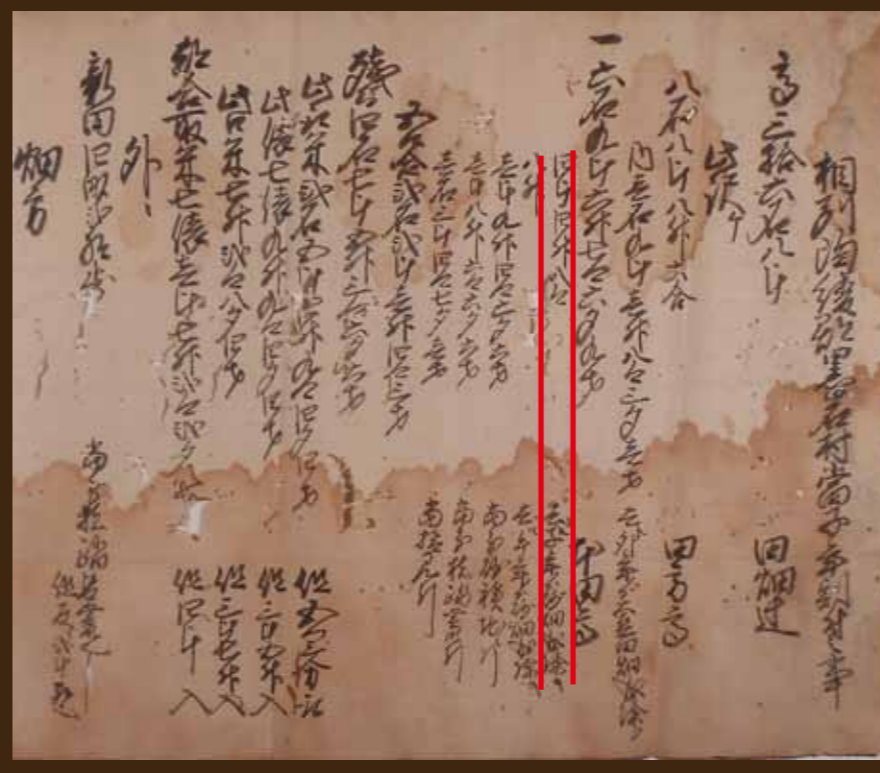
「富士山自焼記」



（東京大学史料編纂所蔵謄写本）



黒岩の古文書



約50年後の年貢割付状に、火山灰の影響が見られる。（個人所蔵）

火山灰の土層



発掘調査により、国府新宿の地中から発見された。（大磯町郷土資料館所蔵）



それでも当時の人たちは田畑の復興に力を尽くしたべえ。現在の山北町の地面の下から見つかったものだけど、右の写真を見てみるべえ。



？？これは…？何の跡なの？



これは「天地返し」と言って、火山灰で覆われた田畑を復興した跡だべえ。火山灰で降り積もった土を、元の土地まで掘り返して、火山灰の下にある土を火山灰の上に積みかさねたんだべえ。



なるほど。元の耕作した土を火山灰の上に重ねることによって、田畑を復興したのね。溝を掘って順番に返していくから、土地の断面を切り取ったときに、四角く黒い火山灰の部分が見えるのね。

「天地返し」の跡



（山北町教育委員会提供）

制作

大磯町郷土資料館

2015年（平成27）3月

〒255-0005 神奈川県中郡大磯町西小磯 446-1

電話：0463-61-4700 F A X：0463-61-4660

主な参考文献

大磯町郷土資料館編『大磯の災害』2013

気象庁編『日本活火山総覧』第4版 2013

北原糸子ほか編『日本歴史災害事典』吉川弘文館 2012

古宮雅明「富

士山宝永噴火災害における幕府の御救について」（『大磯町史研究』15 2008）

神奈川県立歴史博物館編『富士山噴火』2006

大磯町編『大磯町史』1996～2008